

令和6年度 大分県高等学校新人大会【登山縦走競技】 予報1号

高体連登山専門委員長 平山齊昭（三重総合高校）

1 大会山域の歴史と自然

【近世の佐伯】

近世の佐伯市域は、佐伯藩と岡藩（宇目郷）に分かれていた。佐伯藩は石高が2万石、その領域は現在の津久見市南部から宇目を除く佐伯市全域であった。初代藩主毛利高政（もうりたかまさ）は、豊臣秀吉に仕え、日田・玖珠を治めた戦国大名であったが、関ヶ原の戦いで石田方（西軍）についたため佐伯に国替えとなる。高政は、番匠川河口に佐伯城を築き、豊後水道に面する浦方（うらかた）と平地の少ない山間部の農村を藩政の基盤とした。以後12代高謙（たかあき）の時に明治維新を迎えるまで佐伯藩の毛利家による支配は存続した。一方、大野郡に属する宇目郷は、岡藩6万6千石の領地となり、交通の要所として重視され、鉾山開発などが行われた。藩主中川氏は、初代秀成（ひでなり）から12代久昭（ひさあき）まで江戸時代を通じて岡藩を統治した。

【近代の佐伯】

明治4年（1871）の廃藩置県により大分県が誕生した。明治10年（1877）に勃発した西南戦争では、宮崎県境の山間部が広範囲に戦場となり、西郷軍の一部は佐伯市街にも侵入した。宇目・直川などには現在も多数の台場跡が残されている。明治11年（1878）、海部郡は蒲戸崎（かまとぎき）を境に南北海部郡に分けられた。明治22年の市町村制の施行により旧佐伯藩領は南海部郡1町23村、宇目は大野郡2村となり、現在の行政区割りの基礎ができた。

昭和に入ると佐伯湾に面した海岸部に海軍基地ができ、佐伯は軍事都市として発展する。昭和9年（1934）に佐伯海軍航空隊が開隊、昭和15年（1940）には佐伯防備隊ができた。また、昭和16年（1941）には、真珠湾攻撃に向けて、佐伯湾から連合艦隊機動部隊の一部が発進した。しかし、戦局の悪化した昭和20年に入ると、佐伯もたびたび米軍の空襲を受け、一般市民も犠牲となった。

【現代の佐伯】

戦後、旧海軍跡地などの臨海部に工場・造船

所が進出、高度経済成長の波にも乗り、県下で最も早く工業都市として発展した。しかし、2度のオイルショックを経て、その後の経済は低迷する。平成17（2005）年3月3日、佐伯市と南海部郡の5町3村が合併し、新「佐伯市」が誕生した。

【歴史と文学の道】

大手門跡（佐伯市大手前）から毛利家の菩提寺である養賢寺までの、山際通りを含むおよそ700mは、昭和61年（1986）年に建設省（現在の国土交通省）により「日本の道100選」に選定された。佐伯市は「佐伯市歴史的環境保存条例」をもって「歴史的環境保存区」に指定、整備している。静寂に包まれた山際通りは、矢野龍溪生家跡や、独歩が寄寓していた坂本邸（現・城下町佐伯 国木田独歩館）などが建ち並び、昔日の面影を残す、文字通り「歴史と文学の道」である。

【アサギマダラの休息地】

年に2回訪れる「アサギマダラ」の群れは大分県の県南地域では佐伯市米水津（よのうづ）と蒲江、県北では日出町の山田湧水あたり、国東の姫島で見ることができる。春は、涼しい地を求め北上。5月の東の間、佐伯市米水津の「空の公園」に咲くスナビキソウの花の蜜を求め、しばし栄養補給・・・秋は、10月になると暖かい地を求め南下。このときは、フジバカマの花の蜜を求めて降り立つ。佐伯では米水津の「空の公園」と蒲江の「たかひら展望公園」に飛来し、11月末頃まで見ることができる。2000kmもの長旅をする渡り蝶は、生態にも謎が多い。時期や植物の状況に柔軟に対応し、台風を活用したり雨が降る前に一気に移動した



りと、自然環境を察知し渡りをする。

【城山】

佐伯市街のほぼ中央に、シイの木で覆われている「城山（標高 144m）」がある。佐伯城は慶長 11 年（1606 年）、日田の日隈城から国替された毛利高政によって築かれた。天守閣は、築城後ほどなく火災によって消失、わずかに残った隈櫓・土堀なども廃藩置県の際に取り壊された。今日では、三の丸に櫓門（やぐらもん）、山頂に石垣が残るだけとなっている。明治の文豪国木田独歩は「大木暗く繁った山であまり高くはないが甚だ風景に富んでいました。」と記し、「余が初めて佐伯に入るや先ずこの山に心動き、余已に佐伯を去るも眼底其の景容を拭い去る能わず、この山なくば余には殆んど佐伯なきなり。」とさらに記している。佐伯市民にとっても城山は、今なお心のより所であり、シンボルである。

城山山頂上までの道のりには、独歩碑の道、登城の道、翠明の道、若宮の道と、4つの登山道があり、それぞれ四季折々の風景が楽しめる。山頂からは、遠く四国の山々まで眺望でき、登る人が後をたたない。

出典：佐伯市ホームページ「佐伯市観光ナビ」<https://www.city.saiki.oita.jp/>

2 大会コースの山

【元越山（もとごえさん）：581.5m】

元越山は2002年8月に九州百名山に指定されている。山頂には日本国土地理院の定めた一等三角点がある。頂上からの景観は、国土地理院調査員によると「全国の三角点のうち、眺望はベスト4に入る。」と言われている。山頂からは360度すべてを見渡すことができ、晴れた日の眺望は素晴らしい。

現在、山頂を目指すには4つのルートがある。西の木立小学校の奥にある神社横から登る木立コース（登山ガイドブックで紹介されているほとんどのルートが、このコースである）。東に位置する色利浦（いろりうら）からのコース。今回の大会コースの降り口にあたる空の公園からのコース。そして大会コースである浦代浦（うらしろうら）から山頂を目指すコースである。

最も一般的なのは色利浦コースであろう。

登山口には駐車場やトイレが完備され、地元の有志により登山道もよく整備されている。途中には展望所も数カ所あり、一息つくたびに米水津湾を見下ろすことができ、豊後水道の景観を楽しみながら登ることができる。筆者も何度も元越山には登っているが、ほぼこのコースである。まだこの色利浦コースを登っていない人は、ぜひいつか経験してほしい。

かの独歩は、「元越山に登る記」の中で山頂に立った感激をこう記している。「余らの最も愉快に感じて忘るあたはざるは、頂上に達するやいなや、漂渺（へうべう）たる大海忽焉（こつえん）として双眸（さうぼう）のうちに入りたる刹那、高遠なる大観に対した瞬間、一種言ひあたはざる感に打たれ、ほとんど涕泣（ていきふ）せんばかりなりき。」（原文ママ）って、どんだけの感動なん！って、ツツコミを入れたくなるが、独歩の時代は、橋もかかかってなかったし、城山の家からてくてく歩いて、番匠川を船に乗って渡り、それからまた浦代浦まで峠を越えてやっと登山口について、それから整備もされていない登山道を歩いて登った先に出会う風景が、あの景色なら、やはり泣くかもな～。

【色利浦（いろりやま）：552.4m・石槌山（いしづちさん）：486.3m】

元越山から色利浦、石槌山を経て空の公園に至るコースは「天空ロード」と呼ばれている。誰が名付けたのかは知らない。そのネーミングから、ずっと空の上を歩くような視界の開けた登山道を想像してしまいそうだが、ちょっと違う。色利浦以外は、眺望はあまり良くない。だからこそ、時に開けて見える豊後水道の美しさに心が動く。海の青と空の青がグラデーションを描くその風景は、ほとんど涕泣せんばかりなり（独歩風に書きました・・・）。登山道は、色利浦山頂と石槌山頂の手前は、結構な勾配であるが、その他の道はほぼ平坦で歩きやすい。私見であるが、トレイルランニングのコースにも向いていて、いつの日か「天空ロード・トレラン大会」なるものが開催されるのではないかと夢想している。

参考文献

・佐伯独歩会『国木田独歩作品集 豊後の國佐伯』

3 コース概況 **太字下線**は主要地点

幕営地である**米水津地域コミュニティセンター**横の野球グラウンド前駐車場から県道 501号を渡り、坂道を上る。左に松崎神社への登り口を見ながら 50mほど進むと右側に元越山登山口の石柱（図1）がある。



図1 浦代浦登山口の石柱

そこを入れて行くと、すぐ右に階段が続いているが、そちらには進まず、真っすぐに山道を入れていく。この辺りは杉林が続いている。登山道がはっきりしていない箇所もあるので、目印となるピンクテープを頼りに登ってほしい。しばらくの間は急登である。登山道にはいたるところに、ロープが張られているが、どれも劣化しているので、使用は最低限にとどめるべきだろう。1時間15分ほど歩くと、林道に出くわす。この林道はしばらく使われていないようで、かなり荒れている。林道は広いので、ここで一度休憩をとるとよいだろう。林道には元越山登山路の表示（図2）があり、ここを登っていく。



図2 林道にある標識

30分ほど登ると約500m地点の尾根に突き当たる。ここを左に曲がり、少しの間下って行く。尾根の登山道はなだらかで歩きやすい。雑木林の間からの木漏れ日が美しい。赤松が登山道に松ぼっくりを落としている。しばらく歩くと、色利浦登山口からのコースと合流する。そこから、山頂まではもうわずかである。

元越山では、ゆっくりとその眺望を味わいたい（図3）。山頂には標識があり、その下には三角点がある（図4）。東には豊後水道が広がり、その向こうに四国が見える。北西にはくじゅう連山。西に目を向けると祖母・傾・大崩山系まで見渡せる。南には日向灘が見渡せる。この風景に出会うために、元越山に登っているとも言っても過言ではない。地球の真ん中に自分が立っているような感覚というのか、心が満たされる気がするのは私だけか。



図3 元越山頂から眺める豊後水道



図4 標識の下の三角点

元越山から空の公園までの約 7.6 km の道のりは、チーム行動である。仲間と色々な話をしながら楽しんで歩こう。途中で随時休憩をとりながら、各チームのペースで歩いてかまわない。チーム行動の間に、昼食をとるのもいいかもしれない。

元越山頂からは南へ進路をとり、天空ロードを歩く。直下は急な傾斜なので、注意して下ろう。15分ほど下ると林道に出る。



図5 天空ロードの標識

この林道を右へと進む。天空ロードは、登山道と林道が繰り返される。林道には、空の公園への距離を示した標識が立っている（図5）。ただ、これらの標識もかなり劣化していて、中には朽ち落ちているものもある。ほぼ平坦な林道を進み、しばらく行くと、林道が右に大きく曲がっている箇所があるが、そこは左に進もう。シダが茂っているので登山道がわかりにくいので、ピンクテープがあるので、間違えないように注意してほしい。元越山からは、1時間ほどで色利山にたどり着く。

色利山は、東面の木々が伐採され、展望が開けている。米水津湾を見下ろすことができ、眼下には色利浦の町が広がっている（図6）。



図6 色利山から米水津湾を見下ろす

色利山から、再び林道へと下り、空の公園に向かっていく。しばらく歩くとNHKの電波塔の建物が現れる。そこから再び林道に出て、しばらく歩くと、左側に展望所との分岐（図7）がある。今回は、展望所はカットして、そのまますぐに林道を歩く。林道には至る所で、イノシシが食物を求めてか、土を掘り起こした跡がみられる。



図7 展望所はカットして林道を進む

しばらく歩くと、左手に鹿よけネットが張られた箇所がある。ネットに引っかからないように注意して歩こう。

途中に仁田尾（491.9m）ピークがあるが、標識はない（木に小さな札はかかっている）。そこから、何度か上り下りを繰り返すと、**石槌山**にたどり着く。残念ながら、石槌山では、眺望は望めない（図8）。標識の文字は、「石槌山」になっているが正しくは「石槌山」であろう。標識の南側に祠（ほこら）があり、そちらまで回り込むと蒲江の集落や湾を見下ろすことができる。屋形島や深島も見え、海も近くに感じられる。



図8 石槌山山頂

石槌山からは、空の公園に向けてひたすら下って行く。途中、突然開けた岩の上に出て、一瞬登山道を見失うが、右下に回り込んで下るとシダに覆われた道がある。しばらくの間ゆるやかな坂を下って行くと、空の公園登山口に下る。

空の公園登山口からアスファルトの道を200mほど北へ下ると(図9)、空の公園である。駐車場の横には、トイレがある(図10)。このトイレ前の駐車場がチーム行動のゴール地点となる。

ここからはパーティ行動の開始となる。ここから、斜め上方向にコンクリートで舗装された遊歩道を歩き始めると、階段がある。そこを上り詰めると、**瀬平山**(せびらやま)(282.6m)である。瀬平山には、展望台があり、海を近くに感じられ、豊後水道の眺めもひとしおである。監督さんは、パーティ行動中にチームの記念写真を撮ってあげてほしい。



図9 空の公園へ



図10 空の公園のトイレ

瀬平山からは、北に向けて**空の地蔵尊**に下って行く。空の地蔵尊には江戸時代から言い伝えがある。その由来が書かれた看板が県道脇に設置されているので、ここでは割愛する。舗装道が続いているが、大木が倒れていたり、雑草にも覆われたりして、以前に比べるとかなり荒れている感がある。観光客も見当たらず人気も少ない。

空の地蔵尊にも展望所があるので、余裕があれば立ち寄ってほしい。空の地蔵尊から、また県道に下り、アスファルト道を下って行く。途中に、犬小屋があり、犬の鳴き声がけたたましい。このカーブを抜けると、右手に空の展望所があり、この駐車場が登山行動のゴールとなる。

空の展望所は、映画「釣りバカ日誌」の撮影に使われた場所で、記念の標識が立っている(図11)。映画のロケに使われるほど、実に絵になる風景なのだ。空の展望所には、望遠鏡が設置されており、覗いてみると、漁船や半島に打ち寄せる白波まではっきりと見ることができる。後ろを振り返ると、元越山から天空ロードまで、今日歩いてきたコースを全て見渡すことができる。

ここで、今日の山行も終わりとなる。



図11 空の展望所

最後に

登山道に関する記述は、2024年9月上旬のものであり、必ずしも現況とそぐわない部分があることは了承願いたい。

令和6年度 大分県高等学校新人大会【登山縦走競技】予報2号

1. 日程・コース

10月26日(土) 開会式・各種審査

【貸し切りバス】明豊高校 09:00 発 → 大分工業高校 10:00 発

【マイクロバス】竹田高校 10:00 発 →

- 11:40 米水津地域コミュニティセンター 着 ※選手はふれあいホールで昼食・休憩
- 12:00 監督会議・審判会議(研修室) ※監督は会議の決定事項について必ず選手に伝えること
- 14:00 開会式(ふれあいホール)
- 15:00 ペーパーテスト(研修室)・天気図審査(会議室)
- 16:00 装備審査
- 16:30 設営審査(野球グラウンド3塁側)
- 17:30 炊事審査
- 21:00 就寝

10月27日(日) 登山行動日

- 04:00 起床・準備・朝食
- 05:50 野球グラウンド前駐車場 集合完了
- 06:00 野球グラウンド前駐車場 発 ※隊行動開始
- 08:30 元越山 着
- 09:00 元越山 発 ※チーム行動開始 規定時間(男子:3時間40分 女子:4時間)
- 10:10 色利山 制限時間(男子:4時間 女子:4時間20分)
- 11:50 石槌山
- 12:40 空の公園(トイレ) 着 昼食休憩
- 13:30 空の公園 発 ※パーティ行動開始
- 14:30 空の展望所 着 登山行動終了 ※マイクロバスで幕営地へ移動
- 15:00 シャワー利用(米水津保健センター)
- 17:30 設営審査
- 18:00 夕食
- 21:00 就寝

10月28日(月) 表彰式・閉会式

- 06:00 起床・朝食
- 07:00 清掃活動(幕営地・トイレ等)
- 08:00 交流会(各チーム紹介等)
- 09:00 講演会「タンザニア キリマンジャロ遠征報告」(ふれあいホール)
講師:赤嶺・石川・森・山本
- 10:30 表彰式・閉会式(ふれあいホール)
- 11:30 解散
- 12:00 米水津地域コミュニティセンター 発
- 【マイクロバス】竹田高校 13:30
- 【貸し切りバス】大分工業高校 13:30 → 明豊高校 14:30 着

2. 医療機関・警察・消防

	施設名	所在地	電話番号
医療機関 (休日当番医)	曾根病院	佐伯市長島町 2-18-24	(0972) 23-8877
警察	佐伯警察署	佐伯市大字鶴望 2825 番地 4	(0972) 22-2131
	米水津警察官駐在所	佐伯市米水津大字浦代浦 1215-2	(0972) 35-6001
消防	佐伯消防署	佐伯市鶴岡西町 1 丁目 223 番地	(0972) 22-3301

3. 荒天対策

	第 1 日 (10/26) の行動	第 2 日 (10/27) の行動	第 3 日 (10/28) の行動
第 1 日 荒天	計画通り (状況により幕営地変更)	計画通り	計画通り
第 2 日 荒天	—	サブザック行動 (状況によりコース変更)	計画通り
第 3 日 荒天	—	—	計画通り

4. 連絡事項

(1) 審査について

今大会の審査は、「登山部報第 6 7 号」に記載の全国高等学校登山大会成績評価実施要領「全国高等学校登山大会<審査基準と指導目標>」と「全国高等学校登山大会審査確認事例」、「チーム行動について」、「班離脱・隊離脱・行動離脱・棄権についての整理・確認」「登山大会服装規定」に準じて行う。

(2) 幕営及び炊事について

選手の幕営地は、米水津地域コミュニティセンター横の野球グラウンド 3 塁側とする。食事は各チームで準備すること。また、感染対策として、調理前後の手洗いと調理中のマスク着用（飛沫予防のため）を奨励する。

(3) シャワー利用について

選手、監督・役員は、米水津保健センター・温水プール「和」にてシャワー利用が可能である。ただし、利用料金（260 円）が必要である。利用時間は、15:00～16:45 を厳守すること。

(4) 監督・役員の宿泊について

監督と役員は、海辺の村地域活性化センターに宿泊し、食事は全て設営隊から配給する。

(5) 携帯電話（スマートフォン）について

「審査確認事例」のとおり、GPS 機能を有する機器は、所持できないが、選手の安全を確保するためにチームに 1 台ずつ携帯電話（スマートフォン）の所持を認める。ただし、受付時に封印をし、緊急時のみ連絡が取れるようにすること。

(6) 地震の際の避難経路について

地震の場合は、選手の幕営地である野球グラウンドを避難場所とする。津波が予想される場合は、松崎神社まで避難する。

令和6年度大分県高等学校新人大会コース地図

